





特徴1. グループケア ~他者交流支援~

チャイム

1日のデイサービスでのスケジュールを時間割とし、チャイムを鳴らすことで、メリハリのある時間を過ごすとともに、利用者同士が共に活動することで、交流機会を支援します。





学校形式

なじみのある、学校の仕組みを利用 し、不安なく、集団活動を行うこと で、社会性の維持を促します。





認知症予防への効果

他者交流により、脳内活動を刺激し、認知機能の維持・改善を 図ります。また、仲間づくり、共同作業、成果発表する機会を もつことで、社会性を維持します。

特徴2. まなビリテーション

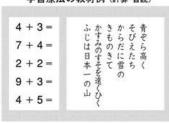
~学習療法・回想法の活用~

「学習療法」「回想法」を活用し、「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を通して生活意欲を高めていきます。

学習療法とは、音読と計算を中心とする教材を用いた学習を、他者とコミュニケーションをとりながら行うことにより認知機能やコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善を図ります。

回想法とは、昔のことを思い出すことで、自分の人生の価値の再発見や 当時の情動の活性化を促します。また、「思い出す」という行為が記憶 を維持し、認知症の進行を遅らせる ことにつながります。

学習療法の教材例 (計算・音誌)







認知症予防への効果

認知・記憶・コミュニケーション機能の維持・改善を図ります。

特徴3 認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」

国立長寿医療研究センターが開発した、運動と認知トレーニングを組み合わせた認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」を取り入れています。

コグニサイズとは

英語のcognition (認知) とexercise (運動) を組み合わせた造語で、Cognition (認知) は脳に認知的な負荷がかかるような各種の認知課題、Exercise (運動) は各種の運動課題を指します。運動課題と認知課題に同時に取り組むプログラムです。



認知症予防への効果

運動機能と認知機能を同時に働かせることで、脳内活動を活性化させ、認知症予防・改善を図ります。